2026 年 11 月 5 日
積水ハウス株式会社
株式会社ノーリツ
株式会社ハーマン

水素コンロの家庭利用を検証
積水ハウス、ノーリツ、ハーマンの 3 社で共同研究を開始
～家庭における水素エネルギーの利用拡大へ～

積水ハウス株式会社（以下、積水ハウス）、株式会社ノーリツ（以下、ノーリツ）および株式会社ハーマン（以下、ハーマン）は、家庭での CO_2削減につながる水素エネルギーの利用可能性を探るため、「水素ガスコンロ（以下、水素コンロ）を利用した居住環境評価」の共同研究を2026 年 11 月から開始します。本共同研究では、3 社それぞれの知見を生かし、水素を燃料として直接燃焼させる家庭用水素コンロを用いて、室内環境や調理への影響などを検証します。これらの研究を通じて、住宅への導入可能性や、家庭における水素エネルギーの利用用途の拡大につながる知見を蓄積します。なお、新築住宅で広く採用されているビルトインタイプの水素コンロを用いた検証は、日本初※の取り組みです。




水素コンロ ：水素ガスを燃料として直接燃焼させ、その熱を調理に利用する機器。燃焼時に CO_2を排出しないのが特長

2050 年カーボンニュートラルの実現に向け、住宅分野においても CO_2排出量の削減が求められています。その実現に向けたエネルギーの一つとして期待される水素は、発電だけでなく、燃焼によって熱エネルギーとして直接利用することができます。積水ハウス、ノーリツ、ハーマンの 3 社は、こうした水素の特長を暮らしの中で生かし、その活用領域を調理や給湯など家庭内の用途へ広げることを目指します。

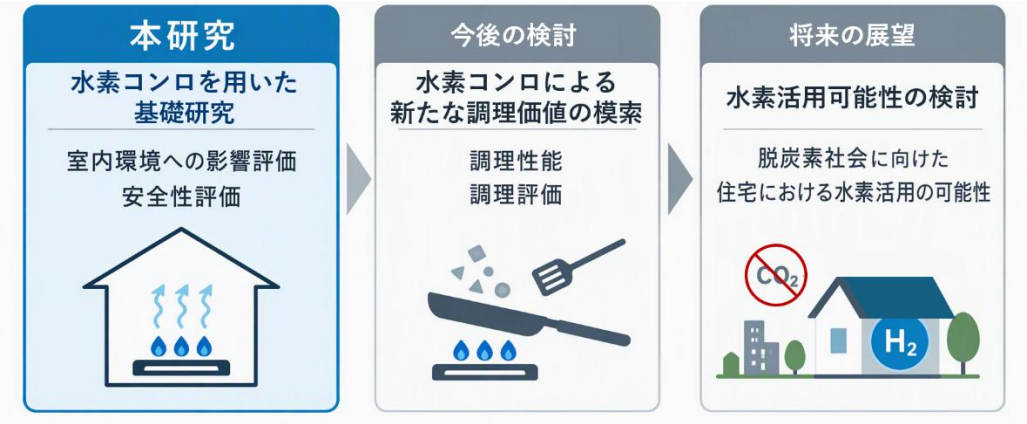
本共同研究では、ノーリツとハーマンが有する水素燃焼技術・機器開発の知見を掛け合わせて開発した家庭用水素コンロを用い、積水ハウスが培ってきた住まいづくりに関する知見を加え、住宅への導入可能性について検討を進めていきます。検討にあたっては、京都府木津川市にある積水ハウスの総合住宅研究所に水素コンロの検証環境を整備します。

水素は燃焼時に CO_2を排出せず、都市ガスなどと比べて燃焼時に多くの水蒸気を発生させる特性があります。この特性を踏まえ、室内空気環境や暮らしの中での人体への影響を評価・分析し、水素コンロを利用する上での技術課題を整理します。加えて、燃焼時の多くの水蒸気が食材、調理に与える影響も明らかにし、水素を用いた調理ならではの価値創出にもつなげたいと考えています。

将来的には、給湯分野も含めた住宅内での水素活用についても検討を進め、レジリエンス性、脱炭素性、新たな住まい価値につなげるあり方を探っていきます。

※ノーリツ調べ（2026 年 10 月時点）。国内で公表されているビルトインタイプの水素コンロの開発・発売事例に基づく。

■共同研究の概要と今後の展開



■各社の役割

積水ハウス	水素コンロの実験環境の整備、設置・安全対策、住宅導入に向けた検討、居住環境への影響等の評価
ノーリツ	水素コンロの加熱特性の評価、新たな調理価値の創出、住宅設備における水素利用価値の検討
ハーマン	水素コンロの開発・提供、安全面に関する技術支援、居住環境への影響等の評価

■各社コメント

積水ハウス株式会社

積水ハウスは、ZEH の普及や水素エネルギーを活用した住まいの研究開発を通じて、住まいのカーボンニュートラル化とレジリエンス向上に取り組んできました。今回の共同研究により、水素エネルギーの活用領域拡大と新たな住まい価値の可能性を追求し、「わが家」を世界一幸せな場所にする住まいの提供を目指します。

株式会社ノーリツ

ノーリツは、2050 年のカーボンニュートラル実現に向け、家庭の給湯分野における CO_2削減を重要なテーマと位置づけ、水素をはじめとする次世代エネルギーに対応した機器開発を進めてきました。2023 年に水素 100%を燃料とした、燃焼時に CO_2を排出しない家庭用給湯器を開発・発表するなど、水素社会の実現に向けた技術開発と知見の蓄積に取り組んでいます。本共同研究では、住宅における実使用環境での検証を進め、水素社会の実現に向けた技術開発を加速します。

株式会社ハーマン

ハーマンは、ノーリツグループの一員として、カーボンニュートラルの実現に向け、水素をはじめとする次世代エネルギー対応機器の開発を重要なテーマとして取り組んでいます。これまで培ってきた燃焼技術を活かしながら、環境負荷低減と快適な調理体験の両立を目指した商品開発を進めてまいりました。本共同研究では、家庭用ビルトイン型水素コンロの将来的な社会実装に向けた検証を進め、さらなる環境負荷低減と新たな調理価値の創出に挑戦してまいります。